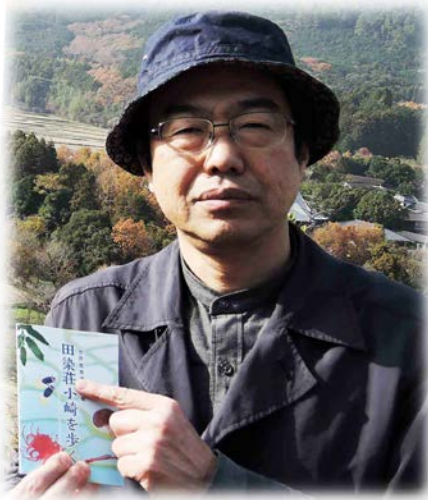


九州産業考古学会報

第32号 2021年10月10日発行 発行元：九州産業考古学会

九州産業考古学会の今後について—会長就任ご挨拶にかえて—

時里奉明（会長・筑紫女学園大学教授）



このたび、なぜか会長に就任することになりました。私で6代目、文学部出身（専攻は日本近代史、八幡製鐵所と地域社会の関係を研究）としては、初めてのようです。まずはバトンを受け取ったので、次へとつなぐべく、一つひとつ前へ進めたいと思っています。といっても、会員のみなさまあつての本会です。早速ですが、ご提案したいことがあります。

本会は1989（平成元）年に「九州産業考古学会」として誕生しました。それから今日まで、さまざまな活動を行い、30年あまりの年月を積み重ねてきました。詳しくは、会報やホームページをご覧くださいと存じます。

この30年をふりかえてみると、人々の産業遺産に対する認知度は格段にアップしたと思います。文化庁が1990年に近代産業遺産の調査を開始したのは一大転機でした。奇しくも、本会の発足と同じころです。その後、報告書や出版物は増え、テレビや新聞でよく扱うようになりました。そして、日本の近代産業遺産は世界遺産に登録されるまでになりました。2015年に登録された「明治日本の産業革命遺産」は、まだ記憶に新しいことでしょう。こうして、産業遺産の名称は広く知られるようになりました。

ところが、本会の会員数は伸び悩んでいます。とくに若年の入会が少ないのです。私はその原因の一つに、本会の名称がややわかりにくいのではないかと考えています。研究者の世界において、「産業考古学」は学問分野として確立しており、問題はないでしょう。ただし、本会は研究者だけでなく、会社員、公務員、自営業者などさまざまな人によって成り立っています。この多様さが、本会の魅力になっているのは言うまでもありません。また日本の場合、「考古学」はどうしても土や発掘などを想像しがちです。本会を正確に理解してもらう必要があるでしょう。

そこで、本会の名称に「産業遺産」を取り入れ、「九州産業遺産学会」に改めることをご提案します。そして、この改名を本会のさらなるステップの一步にしたいと考えています。ご意見をお待ちしています。

【報告】

令和三年度総会について

砂場一明（事務局長）

《総会》

新型コロナ禍のため、昨年度は活動をほぼ中止としたが、学会の今後の方針を策定するため、8月29日（日）門司赤煉瓦交流館（北九州市門司区大里）において2年ぶりに総会を実施した。会員には通知を出したものの緊急事態宣言下のため、出席は役員を中心とした少人数になったが、令和元年度及び2年度の活動報告、会計報告、及び役員改選人事を行った。

大石道義会員が会長を満期退任されたが、時里奉明会員が新会長に推薦され、全会一致で承認された。副会長以下の役員は留任した。大石前会長は会則第9条に基づき「顧問」に就任する。

学会名称を九州産業考古学会から九州産業遺産学会に変更してはどうかとの意見が出されたが、より多くの会員の声も聞く必要があることから、引き続いての検討課題とした。会報の発行や見学会を定期的実施することによって小会及び産業遺産への関心を喚起すべきである、そうした活動の活性化が新入会員の獲得に繋がるのではないかと、との意見もあった。次回の総会は太宰府市の「筑紫女学園大学」を会場に開催することになった。

《令和2年度会計報告》

令和3年4月1日締め切り会計において、収入は、前年度繰越金33万9792円と会費収入など合計36万3792円。支出は、会報発送費、事務費、弔電など合計2万5083円。決算残高は33万8709円（次期繰越）であった。

事務局長 砂場一明

《見学会》

総会終了後、一昨年に改装なったJR門司港駅の見学に赴いた。百余年ぶりに創建当時の姿に甦った門司港駅舎だが、長らく見慣れてきた正面の大庇が無くなったため柱の縦線が強調されて美しい。駅舎内1階は、大正時代の一・二等待合室、三等待合室、小荷物取扱室、西側倉庫、の各室がそれぞれ、みどりの窓口・観光案内所、スターバックスコーヒー店、待合室、展示スペース、に改装され、今風の駅になっている。2階にあった貴賓室と食堂は、当時の格調高い雰囲気再現して、駅開業（大正3年）と同時に営業を開始した「みかど食堂」が名称もそのままに復活している。

門司港駅近く、国道沿い海側に「新海運ビル」がある。ここは初めて見学に入ったが、昭和3年頃、海運会社の本社ビルとして建設されたもので、船をモチーフにしたという細長いユニークな木造3階建てである。時代をおびたフロアに小さな雑貨屋が店を並べ、若者たちの隠れた人気スポットとなっている。今回の見学会は、もともと予定にはなかったが、市原会員のガイドよろしきを得て、ふだん気づかない珍しい所を見ることが出来た。

なお、このビルと同じころ昭和初期に建てられた「大谷会館」（北九州市八幡東区）が解体されると総会当日に聞かされたのには驚いた。鉦淬煉瓦造りの重厚また貴重な洋館で、世界遺産となった産業革命遺産の関連施設とも言えるものだ。平成元年には北九州市の建築文化賞も受けていた。いったい北九州市の文化財行政はどうなっているのだろうか。小会も身近な産業遺産の現状の再検証に入るべきか。

【報告】

『新修宗像市史』の「鉱業」を執筆して

砂場一明（事務局長）

新宗像市制十周年記念事業として企画された『新修宗像市史』（テーマ別に全6巻）は順次刊行中であるが、その中の「くらし」（＝産業）をテーマとした巻に、ささやかながら新たに「鉱業」のスペースが与えられ、砂場が担当することになった。十数年前の小会編『福岡の近代化遺産』（弦書房）出版の際に一部を調べたことがあったが、今回は宗像（宗像市及び旧宗像郡）地域の鉱業史を体系的に調べ直さなければならない。数年にわたる調査と執筆が完了し、調整作業が進行中であとは本の完成を待つばかりであるが、ここでは調査の過程で得た知見のいくつかについて報告する。（なお本巻の刊行は来年以降になると思われる。）

◆宗像の金属鉱山

金属鉱山というと宗像では金山であるが、宗像市の東、岡垣町との境をなす湯川山の麓にある上八（こうじょう）地区では、幕末に藩営金山で盛んに採掘が行なわれていた。金坑夫達の「往来手形」や、選鉱や粉碎に使われた「揺り鉢」「金挽臼」など、金山に関わる文書や道具がこの地の寺や民家に保存されているのを確認した。山中に入ると幾つもの採掘坑跡があり「山神社」も祀られていた。金山は維新前に休山したが、明治中頃から全国的に金鉱探索熱が高まり、この地でも再び採掘が始められた。東京の「タバコ王」村井吉兵衛が「村井鐘崎鑛業所」の名で昭和初期まで経営した時期もあり、そのトロッコ道跡を山神社近くで確認できた。

池田地区では、特に昭和8年から大分の鉱業企業家・成清信愛が近代的な「成清池

野鉱山」を展開した。経営は順調だったが、18年に金鉱山整備令が公布され、休山を余儀なくされた。戦後再開されることもなく昭和46年頃消滅している。坑口は閉塞され、跡地では掘り出された廃石ばかりが目につく。

JR赤間駅から北西約3kmの河東地区にもかつて藩営金山があって、これも明治中頃に再開されている。鉱業権者の入れ替わりが激しかったが、昭和17年から「河東鉱山野間鉱業所」となり、ここは金だけでなく銅や、終戦間際には軍需金属として不可欠な鉛、亜鉛なども産出した。宗像中学の生徒の見学記が残されている。戦後も稼業していたが、落盤事故もあって昭和35年に休山した。跡地には廃屋化した社宅跡、火薬庫、給水塔などの地上施設が残存している。周辺に坑道・坑口跡が数多く残っており、埋没寸前の昭和初期の本坑坑口を特定することができた。

宗像市の東南部、吉武地区でも昭和15年頃から金鉱の採掘が行なわれた。昭和32年発行の地形図の八所宮近くに鉱山記号と「きん」の字があるが、場所や遺構は確認できなかった。しかし宗像が福岡県有数の金山地帯であったことが確認できた。

◆宗像の鉄鉱山

日常生活に欠かせない鉄はどうであったか。「黒田家譜」にも関連するが、旧宗像郡津屋崎町渡（現福津市渡）「恋の浦」海岸の金山国有林内の松林には、精錬による鉄滓が大量に廃棄されている。またJR赤間駅近くの三郎丸地区には「鉄山」「多々羅」の小字がある。具体的な遺構や遺物を確定す

るには至らなかったが、近世に「宗像金」と並んで「宗像鉄」が生産された可能性は高い。

◆宗像の石炭鉱山

宗像は筑豊炭田地帯の末端部にあつて、小規模ながら石炭を産出した。学習用地図にも記載された「宗像炭田」は、市域を貫流する釣川を挟むように広がっている。その北端に、中でも最大規模の池田炭鉱があつた。広大な跡地は宗像自動車学校や住宅団地が変わって、地下はもちろん地上にも今やその面影はない。しかし炭鉱から南東方向に約 2 km 離れた山中に、運炭用空中ケーブルを支えた櫓のコンクリート基礎が 2 カ所残存していることを確認することができた。このケーブルは、貝島鉱業経営時代の 大正 8 年に、石炭積み出し駅がある赤間までの間に設置したもので、昭和 11 年頃まで使用された。基礎の周辺を探索すると、ケーブルに吊るされた搬器（バケット）が樹木に触れないよう山を切り通した跡も見られ、これは戦前の池田炭鉱全盛期の姿を今に伝える地上遺構として貴重である。

炭鉱は、昭和 3 年から広島出身の木原峰次郎が「木原鑛業池田炭坑」として赤間町に本社を置いたことで、炭鉱会社としてのみならず全産業を通じて宗像では最大級の地場企業になった。昭和 8 年には全国的にも珍しい露天掘りも加わり、従業員は 800 人に達し、出炭量も 8 万トン近くを記録している。戦後は昭和 23 年から福岡市の西日本鉱業が「大和炭坑」と称して、30 年頃まで盛況を極めた。33 年に閉山したが、宗像を代表した大手企業として、大和の盛業ぶりを記憶にとどめる人は少なくない。

戦後の石炭ブームの頃、宗像には外にも炭鉱が 14 箇所もあつたが、石炭不況でそれら零細炭鉱は閉山し消滅した。地上施設も一掃されたが、宗像の朝町地区、昼掛八幡

宮近くにあつた高生炭坑の跡地には、巻揚げ機の台座らしきコンクリート構造物が残っている。かつて宗像に炭鉱が栄えたことをリアルに物語る貴重な産業遺産である。

◆その他の鉱山

宗像地方の地形・地質は「北部九州のそのミニチュア版である」と言われる通り、多彩な鉱物を埋蔵している。金と鉄と石炭のほか、銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄・マンガン・珪石・砂金・砂鉄などが掘られた記録がある。大正時代には、大島で石油の試掘も行なわれている。

◆新修宗像市史「鉱業」を執筆して

宗像にも金山があり炭鉱があつた。そこで多くの人が働いていた。今や宗像市民でこのことを知る人は少なくなっているが、今回市史の執筆を依頼されたのを機に改めて宗像の鉱業史を実地に調べてみて、いくつかの史実や産業遺産を確認することができた。調査行の末期に、凶らずも数年前に鉱害復旧工事が行われたという現場に遭遇したのは驚いた。

農業や漁業だけでなく、鉱業も「くらし」に欠かせないものであり、その歴史や遺跡が身近にあることを改めて知った。産業考古学の意義を再確認した次第である。



【お知らせ】

「まちかどの近代建築写真展 in 八幡 II」

2019 年以来 2 年ぶりのまちかどの近代建築写真展を前回と同様に北九州市の旧百三十三銀行ギャラリーにて開催いたします。今回は全国各地の金融機関・銀行建築をテーマにしたもので、本テーマでの写真展開催は全国初公開となります。

皆様のお越しをお待ち申し上げます。

会期：令和3年10月23日（土）～

10月29日（金）

10時～17時30分（最終日午前中まで）

会場：北九州市立旧百三十銀行ギャラリー
（北九州市八幡東区西本町）



写真 旧百三十銀行ギャラリー・会場



【追悼】

長弘雄次先生を偲ぶ

木元富夫（顧問）

先頃（2021年）3月末、長弘雄次先生が死去された。享年95。先生は大正末年に朝鮮釜山府に生まれ、旧制山口高校、九州帝国大学工学部採鉱学科を卒業し、古河鉱業に入社された。戦後の炭鉱全盛時代、技術者として筑豊の雨龍、目尾、下山田等々で採掘に従事するも、会社人生の後半でエネルギー革命に直面することを余儀なくされる。最後の十年は専ら炭鉱の終焉に関わる業務を担当するうちに定年で退職を迎えられた。

元々が学究肌の先生は退職後の昭和56年、九州共立大学工学部教員に転身される。測量学や土木工学史を講義する一方で研究を深め、「風化花崗岩の有効利用に関する研究」で工学博士号を授与されている。大学

を退職してからは、筑豊の石炭産業遺産の調査・研究・顕彰に拍車がかかり、筑豊近代遺産研究会の会長も務められた。

こうして略歴を紹介しているだけでスペースが尽きて来そうだが、門外漢の我々に遺された文献的業績として欠かせないのは、先生の「筑豊炭田開発技術史論文選集」たる『筑豊の石炭に生きた日々の記憶』（2012年、私家版）と、会長時代に研究会編として刊行された『筑豊の近代化遺産』（2008年、弦書房）の二冊である。刊行の都度、小会報でも紹介したが、何れも産業遺産を巡って郷土愛溢れる好著である。先年物故された深町純亮氏とは同年生で、大学卒業年次は1年違い。共に飯塚住まいの「深町石炭翁」と「長弘炭坑翁」は「炭坑（ヤマ）の語り部」の両雄であった。

個人的な思い出として、先生が九州共立大学に招かれた翌年に、私も関西を離れ関門海峡を越えて同学経済学部へ赴任した。工学部と経済学部ではまず無縁だが、何かの委員会で同席してから近付きになり、話している中に興味が重なることが分かって、親しく教わることになった次第であった。おかげでこの道40年近く、産業遺産に取り組んだ「日々の記憶」が私にもよみがえって来る。先生からボタ山をスケッチした画をもらったことがある。御冥福をお祈りする。



写真 「筑豊の近代化遺産」出版記念会の長弘先生（2008/09）

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】（700字～1400字程度）や【研究発表】（1400～2800字程度）、【お知らせ】（400字以内）など。いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第32号・目次■■

【巻頭言】

九州産業考古学会の今後について—会長
就任ご挨拶にかえて—……………時里奉明 1

【お知らせ】

「まちかどの近代建築写真展 in 八幡Ⅱ」
…………… 4

【報告】

令和三年度総会報告 ……………砂場一明 2
『新修宗像市史』の「鉱業」を執筆して
……………砂場一明 3

【追悼】

長弘雄次先生を偲ぶ ……………木元富夫 5

【お知らせ】

今後の予定 …………… 6
会費納入・ご寄付のお願い …………… 6

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い
2021年 10月 16日	産業遺産学会全国大会講演 会(オンライン)	当会は年会費を個人会員 2000 円、団体会員は 5000 円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、宜しく願い申し上げます。 会費納入・寄付先口座(一覧) ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店(店番 691) 普通 1914369 九州産業考古学会
10月 23日～ 29日	まちかどの近代建築写真展 in 八幡Ⅱ（北九州市立旧百 三十銀行ギャラリー）	
11月 27日	産業遺産学会全国大会研究 発表大会(オンライン)	
12月		

<編集後記>

今回追悼文が掲載された長弘雄次先生には、本編集担当も卒業論文の私的指導から折に触れお世話になってきた。心より冥福をお祈りする。感染症予防対策のためとはいえ、旅行や出張が制限され、研究活動にも大きな支障が生じている現在、産業遺産の研究者にとって何が出来るのか。未だ解答が導き出せないでいる。

私事ですが、今年4月より熊本学園大学商学部へ赴任することとなりました。これを機に南九州の産業遺産研究にも調査対象を広げ、研究を続けていく所存です。（市原）

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : <http://kias.kilo.jp/index.php>
 学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者 (iota_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。